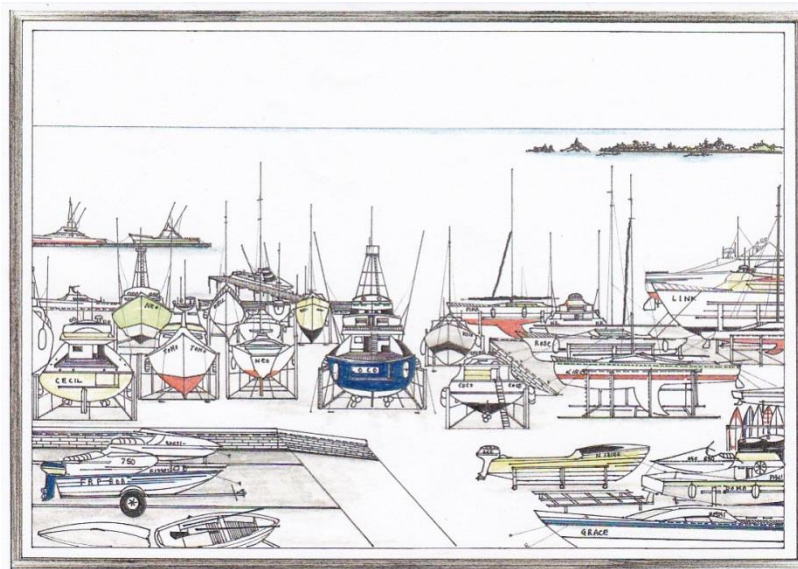


かえるのうた

第9号 2017・5月

ほんにかえるプロジェクト発行
汪楠責任編集



画：T・T

宮城刑務所の方から、こんな素敵な絵が送られてきました。表紙にさせていただきました。

聖木曜日の

パリアノ（イタリア）刑務所

「私たちは、パパ様の家族の一員だと感じました」刑務所長ナディア・チェルソシモは、そう打ち明けました。今年4月13日、教皇はこの刑務所で「最後の晩餐」の記念ミサを執り行いました。

所長は教皇の訪問を受けた後の「あまりにも強い」感情を、ラジオヴァチカンのマイクに向かって吐露しました。

「今年の復活祭の聖三ヶ日は私とここ刑務所の中の“私の家族”にとって、これから先、特別な価値を持っていくことと確信しています。」彼女は断言します。刑務所長にとって教皇の訪問は、「父、家族の一員、あなたにやすらぎを与える人」を迎え入れることであり、「この世で私たちに起こりうる最も素晴らしいこと、ある家族に起こりうる最も素敵なこと。そして、私たちが、＜パパ様の家族の一員＞だと感じたこと」でした。「教皇様は、希望だけでなく、神の愛は大きく、全てを赦そうとしているというメッセージ

を私たちにくださいました。」

福音の愛の掟に特徴づけられた祭儀・ミサのなかで、教皇は、12人の受刑者（1人は6月に洗礼予定）の足を洗い、独房に監禁されている終身刑の2人と面会しました。



パリアノ刑務所で囚人の足を洗い、
接吻する教皇フランシスコ

*聖木曜日：復活に先立つ3日間を聖木曜日、聖金曜日、聖土曜日といいます。

キリストが捕われる聖木曜日には、極みまで愛しつくされた主が、弟子たちと最後の晩餐をとられ、弟子たちの足を洗われました。この出来事にちなんで、教会は、ミサ中に洗足式をおこないます。

夏を呼ぶ 新緑の風 匂いたち 思いそれぞれ 天空にあり

代表 田中伸彦

いつの間にか桜が散り、ツツジが咲き、木々の緑が皐月の風に薫る季節が巡って来ました。

「ほんにかえるプロジェクト」も三年の時を刻みました。力不足、運営資金不足、知恵不足、あれこれ試行錯誤の繰り返しの中で、会員の皆様がたの絶えざる支援を受けて此処まで歩み続けて来る事が出来ました。心より御礼申し上げます。

汪事務局長が、毎回「かえるのうた」紙面でご説明していますが、こちらの力量不足でかえるメイト会員の皆様がたの対応に支障を来し、一つひとつのご依頼に添えかねているのが現状です。今後システムを出来る限り合理化して「ほんにかえるプロジェクト」の活動を続けて行きたいと思っています。

受刑者の方々の自立更正などと身構える気持ちはありませんが、私たちの送り届ける本や便りが、今日一日皆様の気持ちの和みと癒しになり、明日へ向けての僅かばかりの励みになれば幸いです。

一年中でも過ごしやすい時季になりました。明日届く本を楽しみに、今日を安らかに。昨夜読んだ本の一言。「青年の苦悩は、隠された時に最も美しい」

皆で会を守りましょう

ようやく暖かくなって、風が心地よく感じる季節になりました。同じく受刑中の諸兄、如何お過ごしでしょうか。

「かえるのうた」3月号、お読みの方も多くいると思いますが、みなさんはどう感じますか。個人的な、率直な感想を述べさせて貰いますと、その“Aさん”なる人、ちょっとフザケていますね。長く懲役をやって来て、色々な人を見て来ました。そういう自己中心的な理屈で武装した、自分の事しか考えられない人間がいる事は、見ても、知ってもいますが、それにしてもその人は群を抜いています。

プロジェクトが発足して一年半余り、私は割と早い時期に入会させて貰いました。この一年半の間、本田さんを始め、汪さんや、会のスタッフの皆さんの支援を受け、余暇時間がかなり彩りよくなりました。なんと言っても、楽しみが増えましたし、本田さんからの励ましの手紙が、また心の支えにもなりました。それはなにも私一人だけがそうではない、この会報を読んでおられる皆さんにも、同じ体験をした人も多くいるのではないのでしょうか。

私（達）は、罪を犯し、その罰と償いのために、今刑務所にいるのですが、ここはどんな環境なのか、今更言うまでもありません。このままでは、ただただ心が荒んでいき、人間として狡賢くなっていくだけで、更生は難しい。

汪さんが以前、会報で書いていた「反省は一人でできるが、更生は一人ではできない」というのが、経験した人の心の叫びです。だからこそ、汪さんはプロジェクトを立ち上げ、そして本田さんのようなボランティアの方の力を借りて、私（達）の更生の一助になろうと、一所懸命にやってくれます。なのに、一部の心の無いかえるメイトの、無責任な発言によって、今皆が迷惑を蒙っている形になりました。

本田さんが辞められて、多くの会員は残念に思っておられるでしょう。無理難題やクレームをつけた人も、本当に不満であるなら、サッサと退会すれば良いものだが、そうしない所を見ても、本当は彼（達）も、自分達が困る事を、よく知っているのではありませんか？

更生とは、なんでしょうか。私は人の命を奪いました。贖罪は生命が

尽きるまで、一生終わらない。生きている内は、現在進行形で、「できました」はやって来ません。しかし、私は、更生は、いつか、「できました」といえる日が来るのではないかと思います。その最も重要なのは、他人への思いやりを持つことですね。

更生は、あくまでも自発的でなければいけない、他人に促されてできるものではありません。同時に、他人の支え、励ましがあればこそ、恩義、義理、信頼、人情が生まれて、人としての心を持つことができます。ただ安く本を買えるだけではないし、キレイ言でもなんでもありません。

プロジェクトはいま危機的な状況

にあります。プロジェクトは、スタッフの何人かのものですか？それとも私達皆のものですか？いま一度、

皆さんで考えませんか？続けるのは、人力、財力が必要で大変ですが、潰すのはいとも簡単です。汪さん達に「もうやってられない！」と言わせたら、そこで終わりです。そうなると、困るのは私達です。とりわけ誠意を以て会と付き合おうと思っ



ている方々にとっては、甚だ迷惑な話です。

以前私は汪さんに「更生支援を主旨としているのだから、自ら更生意欲のない人に、手を差し伸べる必要があるのか、この余裕のない状態で」と問いかけた事があります。しかし、汪さんは私のこのくだらない感情的な質問を黙殺しました。（注1）それだけ会の皆さんは志を持ってやっておられる。今こそ私達会員は力を出し合って、会の存続に協力しましょうよ。別に難しい事を勧めているわけではありません。度を超えた依頼をやめて、多少のミスに対して、寛容の心で接していけば、スタッフの皆さんにも、心の余裕を取り戻すことができます。せめてこの際、面白半分、冷やかし半分の利用はやめましょう。これもまた私達自身の心の修行にもなり、更生へとつながると思います。感謝の気持ちを持って、誠意を以て付き合えば、楽しみも増えるし、悪い事は何も無い筈です。

支援するも、支援されるも、相手がいてこそこの事です。皆さんどう思われますか？会はまだ一年半、道なかばです、私達皆で盛り上げていきませんか？しっかり軌道に乗れば、おのずとミスも減るし、もっとリクエストに答えてくれるようになっていくのではないのでしょうか。しつこいようですが、もっと広い心を以て付き合っていきましょう。きっといつか「あの時は辛かったけど、プロジェクトがあって、少しは凝りが解けて、よかった」と思う時が来ると思います。

ていくのではないのでしょうか。しつこいようですが、もっと広い心を以て付き合っていきましょう。きっといつか「あの時は辛かったけど、プロジェクトがあって、少しは凝りが解けて、よかった」と思う時が来ると思います。

これからも、受刑生活が続きます、皆さんもお体を大事にして下さい、絶対この無間地獄（八大地獄の中の一つ。または阿鼻（あび）地獄）から生還しましょう！更生の道は険しいけど、辿りつけないわけではないので、一緒に踏ん張って、目標に向かって前進しましょう！

注 1 更生意欲があるかどうかをサポートの判断基準とする案は当初からありました。確かにやる気のないやつを助けるのは苦労が多い。しかし、私たちは更生支援を趣旨とする以上は、今はやる気がなくても、サポートすることでやる気を起こさせることができると考えます。

そうはいつでも、そのAさんを退会させています。それは更生意欲があるかどうかで判断したというより、ルールを守らず、運営そのものに支障をきたす者にはまずは警告し、それでも聞かない場合は厳しい態度で臨みます。これは役員、そして事務局長としての責任でもあります。次のお手紙でわかるように、いまは更生意欲がないように見えても、人間は変わるものです。変わる事のない部分もあって、人間ですから。

かえるメイドの声

“差仕入れ業者って、便利ですね！”
これが「ほんにかえるプロジェクト」の存在を、同じ舎房の先輩に教えてもらった時に1番最初に感じたことでした。

年会費が安く、ネット検索はモノクロ1枚15円・カラー1枚40円、本の購入代行はしてくれるし、本の無料提供もしてくれる。さらにコチラからの様々な要望も叶えてくれるとくれば、これから先の受刑生活が本当に楽になると無邪気に喜んでいました。

しかし、その後…

切手が使えなくなり、値上げ、さらに会員数が増えたことで依頼の処理に時間がかかるようになってしまった…

ほぼすべての会員が程度の差はあれど、不満を感じたと思います。私も不満でした。そう、1年前の私は“自分の都合”しか考えられない人間だった。そんな感じだったので“犯罪系の本”の検索を依頼してしまいました。汪さんから“退会”を含めた厳しい内容のお手紙をいただきました。

その中に“プロジェクトは購入代行業者じゃありません。更生支援団体です。更生するかどうかは本人の自由です。更生してくださいといったこともない。ただ更生したいと思うなら力になりたい。”という言葉があり、それで私の考えは変わりました。

自業自得だとは言え、刑務所生活では、自分の刑期の長さに耐えられず、精神が病んでしまった者が多くいます。さらに嘘・カタリばかりで、他人を信用すれば利用されてバカを見る世界。

そんな中で生活していれば、どうしたって心の中は不満・怒り・被害妄想などでいっぱいになり、ちょっとしたことですら敏感になってしまっても仕方がないと私は思います。

もちろん、立派に日々生活している方も多くいます。そんな苦しく厳しい生活を続けていかなければならないからこそ、私たちの現状を“本当の意味”で理解してくれる汪さんが立ち上げた「ほんにかえるプロジェクト」を、自分達の味方にすべきだと思うのです。

不満や要求ばかり強調して事務局に必要以上の負担をかけるようなこと

をするのは、自分で自分の首を絞めるようなものです。それで退会となったら、誰も得しません。

私達のような人間にとって大嫌いな建前・綺麗事を言うことなく、つねに“本音”で付き合いしてくれる・助けてくれる相手を敵に回すような人間では、出所してからも成功する可能性は低いでしょう。誰にも相手にされず、孤立して、再び刑務所に戻るだけじゃないでしょうか？

金も力も自分一人で手に入れるものではなく、他人から与えられるものです。だからこそ、生きていく上で“人間関係”が1番大切なのだとやっと私は気付きました。

もし以前の私のようにプロジェクトを購入代行業者と勘違いしている人達がいるのなら、一度あらためて考えて下さい。金さえ払えばなんでもしてくれる営利業者などではなく、私達の苦しみも理解してくれて“味方になりましょう”“力になりましょう”と手を差し伸べてくれる更生支援団体なのです。そして頭ではなく心から

気付くことができれば、おのずとプロジェクトとの接し方も変わると思います。私がそうであったように。

この一年、「ほんにかえるプロジェクト」からは刑務所生活では得られない多くの大切なことを学びました。以前は懲罰ばかりのどうしようもない人間だった私が、同じ部屋・同じ班の人達の面倒をみる役割を与えてもらいました。

プロジェクトに対し真摯に関わることで、私は変わったのです。だから、誰もが変われるのです。私の出所はもう少し先ですが、これからも更生するために力を貸していただきたいと心から願っています。

よろしく願いいたします。

平成 29 年 3 月 28 日



汪: 今はやる気がなくても、やる気を起こさせるのも私たちにできることのひとつと考えます。もちろん全員にやる気を起こさ

せることは無理でも、この方のように変わってもらえると、本当に励みになります。感謝感謝。

かえるメイトの声

前略 2017 年度がスタートしましたね。12月7日に西原さんの家で「かえるの忘年会」をおこなったことを井手様から頂いた年賀状に記してありました。年賀状には田中代表や汪さんのお言葉もありました。井手様から届いたクリスマスカードは派手との理由で手元に所持することはできませんでした、残念です。

今回1月6日に本の差し入れ告知を受けました。①置かれた場所で咲きなさい ②ファイト！ の差し入れありがとうございます。昨年12月30日に渡辺和子シスターが亡くされましたね。渡辺様とは3通ですがお手紙の交流がありましたので、とても残念でなりません。今は渡辺様から頂いた直筆のお手紙とお言葉が私の大切な存在となっております。今回このタイミングでわたしの方に「置かれた場所で咲きなさい」が届いたことも、きっと渡辺様が私を見守って下さっていて「まだまだ頑張りなさい」とお言葉を下さっているからだと思っております。

私は7年の刑のうち担当口弁(編集者注:刑務官に口答えをしたとされると、一か月の個室生活を強いられ、そのうえ、一日8時間以上の安座もしくは正座の罰を10日以上受けることになります。)で一度懲罰を受けていますが、その後は無事故(編集者注:いわゆる模範囚)を貫き、現在は第2種を頂いております。私のいる工場では43名中私一人だけです。作業の方は計算工(刑務官に代わって、各種の書類を作成する係)という事で塀の中では一応信用のある役に付いていますが…社会では全く通用しないものですけどね(笑)。

本田さんから頂いたお手紙には「○○さんはいつも前向きに努力している事が分かります」とありましたが…せめて狭き塀の中では…と思っております。実はそんな私でも拘置所にいる頃は職員とモメて保護房(刑務所の中の刑務所)に3度入れられ、その上、監視カメラ部屋に6か月間入れられていたのです…。

今回の事件で友人・知人・家族が私の元から去り、ヤケになっていたのです。今でも友人たちには手紙を出し続けてはいますが、受け取り不可で

何度も戻ってきて、返信がもらえない状態です。ヤケになって荒れていた頃は、今思えば…もっと考えるべきだったと思えてなりません。「苦情の申し立て」等も何度もしましたが、しょせんは同じ法務省の中でのこと、私の意見など通る事も無く、権力の壁の存在を越えることはできませんでした。そこで考えたのです。どうしたら受刑生活をいかに過ごしやすく送れるのだろうか？まずは何事も…しょせん狭い堀の中での事と考えよう。そうしたら違う方向性が見えてくるかも知れない。そう自分に言いきかせて今日までやってこれた。

確かに人間関係で悩む事も多いですし、頭にくることもあります。納得できない処遇や職員の対応もあります。そんなものは数えたらきりがありません。ですが社会にいても、きっと何がしかの不満を持ちながらも我慢をして生きて行かなければならない事もある。それならば自分がどこまで我慢のできる人間なのかを知ってみたい、自分の限界・自分の器量を知ってみたい…と思って、なんとか日々過ごしています。不満やグチを言うならたくさんありますヨ(笑)、ききたいです

か？男のグチを(笑)。そんなもの言った所で何も解決する訳でもなく、相手にも不快な思いをさせるだけじゃないですか。そんな子供じみた事はもう卒業しましたヨ(笑い)。

「かえるメイトへ」拝読致しました。汪さんの判断は正しき選択だと思います。定員を増やす事が活動の成功ではありませんし、プロジェクトが 50 名というボーダーを出しているのなら、まずは活動内容をしっかり運営し、維持して行く事が本意であると思います。問題は、人手と運営費の確保です。運営費の方は古本購入代行サービスを続けることで、ある程度はまかなえると思います。そこは続けた方がいいと思います、少し手間だとは思いますが…。私自身がプロジェクトの会員として残れるかどうかは分かりませんが…残刑が 1 年となりますので応援はしています。

私は出所後、東北の方へ行き復興工事にたずさわりたいと考えています。2020 年には東京オリンピックが決まり、日本が世界に向けてアピールできる点は、原発問題と復興工事だと私は強く思っております。東北に向かう途中に東京によります。その時に汪さん

イベント報告

はじめ、みな様とお逢いできる日を楽しみにしています。まずは自分が生活できるだけの基礎を作らないと…そこだけは、きちんとしておきたいと強く思っております。

塀の中では今が一番辛い時期です。この寒さを塀の中で迎えるのもこれが最後となりますが…(30年1月出所)。今年一年は社会情報、特に求人情報やアパート情報を出版社や地元自治体等に問い合わせて行きたいと思っております。

本田さん、本田さんが一人一人に心を込めて手書きのお手紙をお書きになられている温もりは、きっと伝わっていますヨ。でも無理だけはしないようにしてくださいね(´▽`)

汪さん、プロジェクト維持の為に色々と頭を悩ませている事も多いと思いますが、どうか、本当に孤独な人もいますので、そういう方にこそ手を差し伸べてあげて下さい。

寒い日が続きます、どうかご自愛を

受刑中のかえるメイトからは、日々このような濃い内容のお手紙をいただいております。皆さんの考えや悩みを知る上では参考になると思い、今後も掲載していきたいと思えます。

講師 渋谷ちづる氏 参加者21名
タイトルのお話の後、アロマセラピーのオイルマッサージを教えていただき、二人一組で腕のマッサージをしましました。参加された方の感想を紹介します。

講演会に参加して

前科8犯のスタッフ

渋谷先生の講話を聞き、親のことを深く考えるようになりました。

私には母親はいませんと思っていました。生後8ヶ月で母親は父と別れ、私は母親の顔を知らず、26歳まで、祖母を母親と思い生活してきました。祖母から豊かな愛情を受けましたが、日常生活は本当に甘く、欲しい物はすべて手に入れ、我が儘に育ってしまいました。

講話を聞き、やはり何があるかと生みの親が居なければ、今の私もいません。私は正直、今まで生みの親のことなどを深く考えたことはなく、母親と初めて会った時、他人としか思えませんでした。ですが、母親と会話してみると、何故か色々な話も聞きたくなり、やはり生みの親とはどんなことでも話せるなど思いい、付き合うようになりました。

私は悪業(前科8犯)の生活をしていたので、しだいにまだ疎遠にな

り、母親とは、十数年間また合わなくなりしました。

ある日、母親が“逝ってしまった”という噂を聞いた時には、本当に寂しい気持ちが凄く出てきました。日常生活で母親のことを気にせず、どうでも良いと思っていましたが、やはり、私の心の中に母親は居ました。初めのうちは対処の仕方が分からなくて、会いに行くか、本当に亡くなったのかを考え、迷っていました。そして先生のお話を聞いた時に、やはり母親に会いに行こうと思いました。まず電話をすると、影ながら私のことを思って居てくれ、私を置いて行ってしまったことを、本当に悪く思っていると、私に詫びてくれました。私も、これまでのいきさつとは関係なく、“私を産んでくれて、有難う”と言うことができました。

講話を聞き、親としての女性にたいしての、“気心情愛”を教えて頂いたので、これからは母親ともっと連絡を取るようになり、病身の母に親孝行の真似事でもしていきたくと思いました。

今回は自分にとって、親とはなにか、そして女性に対する思いなど、色々な面で勉強になりました。渋谷先生本当に有難うございました。またこのような場を設けて頂いたプロジェクトの皆さんにも感謝いたします。

4月1日、あざみ野にあるケベック・カリタス修道院にて、助産師である渋谷ちづるさんを招き、“**触れ合っていますか**”という親子関係についてお話していただきました。

更生支援団体の弊会がなぜ助産師の話を書くのか、疑問に思う方もいらっしゃると思います。受刑者は冤罪でもない限り、罪を犯したから刑務所に入れられたのです。その罪を犯した行動に直接の責任はあります。しかし、そこに至った過程では、生育環境や社会問題も大きく影響していると認識しています。本人を取り巻く環境を改善しない限り、更生は難しい。このような考えのもと、今回は人間関係の基本ともいえる親子関係について、学ぶ場を設ける意味で講演会を企画しました。

渋谷さんは長年出産と育児にかかわってこられた方です。お話は男性にとっても勉強になるものばかりでした。その中でも特に印象に残った言葉があります。

乳児期は肌を離さず
幼児期は手を離さず
学童期は目を離さず
思春期は心を離さず

誰もが人の子です。そして親になった方もいます。この言葉を忘れずに、わが子と接していただきたい。不謹慎ながらも、これができないと、わが子を犯罪者に育ってしまうかもしれないと思いました。

編集担当

事務局からのお願い

事務局ではケベック・カリタス修道院から寄付された大型コピー機を使い、会報や検索結果等を印刷し、写真等は家庭用のプリンターで印刷してきました。ここにきて大型コピー機の保守部品が交換時期になり、その費用は18万円。とても払えません。

検索手数料で運営を賄えると考えている方もいますが、会は年間で約100万円の赤字です。人件費を入れずでも、検索は一枚につき、300円を支払っていただかないと、採算が取れませんが、受刑者にそれだけの支払い能力はありません。

そこで支援者の皆様をお願いします。ご家庭で使われなくなったパソコンとプリンターを譲っていただきたい。事務局ではネットに接続せずに使うパソコンも必要としていますので、サポートを受けられないWindows7以前のOSのものでも結構です。書籍の管理に使うだけで、ワードとエクセルさえあれば大丈夫です。

プリンターも常に寄付される古い機種を使っていますから、使えるものなら何でもいいです。使い残しのインクもメーカー問わず、お譲りください。ご協力をお願いします。

重要告知

事務局は6月15日を以て、新しい住所に移転しました。郵送物は新住所に送りますようにお願いします

ほんにかえるプロジェクトは会員を募集しています。正会員の年会費は3000円。寄付もお待ちしています。
振込先
ゆうちょ銀行
10160-86239211
他行からの場合
ゆうちょ銀行018支店
(普)8623921
口座名義は
ほんにかえるプロジェクト

ほんにかえるプロジェクトはボランティアスタッフを募集しています。在宅のままでもできるパソコン入力と文通スタッフが特に不足しています。自宅の住所を公開する必要もありません。プライバシー保護に細心の注意を払っております。

プロジェクトの活動資金の検出の一環としてオリジナル葉書のほかに小冊子も販売するようになりました。第1冊目は汪が書いた「私の生い立ち」(A5サイズ88頁)、500円で販売し、その収益は全額支援活動に充てます。好評につき、手作業で増刷中です。

発行所

〒134-0003 東京都江戸川区
春江町5-15-31 ほんにかえる
プロジェクト事務局
責任編集 汪楠(わんなん)
電話 080-8811-5465